



<http://hatoh.net/>

波 濤

第 52 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会

責任者 佐栞 慎二

発行日 平成29年1月14日

会員数 615名(平成28年10月1日現在)

関東甲信越地区交流会の集い

会長 佐栞 慎二



同窓会連合会の第4回関東甲信越地区交流会を2016年11月19日と20日に神奈川で実施しました。地区交流会は毎年全国6か所で開催されており、神奈川は今回初めての開催でした。全国各地の同窓会から24人、本部から來生副学長、神奈川学習センターから池田所長、藤田事務長他2名、神奈川同窓会から27人と総勢55人の方に参加して頂きました。

19日は交流会に先立ち池田センター長による「ミナトマチ横浜の魅力と放送大学」の表題での講演をして頂きました。開港150年超を迎えた横浜港の歴史と発展の様子や今後の計画、さらに放送大学で行われている横浜港や神奈川の産業や生物、歴史や文学、美術など多彩な授業の紹介がありました。引き続き各同窓会から学園祭の取り組みについて発表して頂きました。皆さん何らかの形で学園祭を開催していますが、同窓会が主導するところや、学習センターや学友会が主催し同窓会が参加するところなど様々です。予算やイベント内容、参加者の不足やリーダー役の不在などの課題について意見交換をしました。神奈川からは「フェスタ・ヨコハマ」の状況とホームカミングデーについて発表しました。30年の歴史をもつ「フェスタ・ヨコハマ」については皆さん大変参考になったようでした。最後に來生副学長から講評を頂きましたが、放送大学における同窓会の活動ぶりを高く評価するとともに、大学本部としてできる限りのサポートをしたいとお話がありました。夜はみなとみらい地区にある「ナビオス横浜」で懇親会を開催し、各同窓会での活動と課題などについて引き続き議論しました。



翌20日は山下公園からマリンシャトルに乗船して港湾施設の見学をしました。前日の池田センター長の横浜港のお話を思い出しながら、ミナトマチ横浜の魅力を実感することができて大変有意義な見学会になりました。

神奈川同窓会の役員・准役員の方々が企画から運営まで一致協力し取り組み、また池田センター長以下学習センターにご支援頂いたおかげで滞りなく終了し、参加された皆さんから「さすがに神奈川！」と感謝の言葉が数多く寄せられました。我々の活動が全国の同窓会の参考



になったようであれば嬉しいことですが、一方で他の同窓会の活動で参考になる面も知ることができました。その意味で今回交流会を主催して得るところが多かったと思います。この経験を活かして会員の皆様に益々喜んで頂けるよう同窓会の活動の幅の拡大と質の充実を推進していきたいと考えています。

第30回フェスタ・ヨコハマ

(1) 白井理事長特別講演会

平成28年9月4日の10時から「フェスタ・ヨコハマ」の特別講演会が開催されました。

今年度の「フェスタ・ヨコハマ」は第30回の記念開催であり、お招きした講師は2011年に放送大学学園理事長に就任された白井克彦先生です。講演会場は二百人ほどの同窓生・学生が集い溢れんばかりの状態でした。



講演テーマは「放送大学の現状と将来」で、冒頭に「学び」「生涯学習」に関する一般的な概念を解説され、そのうえで放送大学の現状を、通信制大学の中の位置づけや「地域貢献」「キャリアアップ」などの特徴という形で論じられました。

放送大学には、最大の特徴である20代から90代までの幅広い層の学生が在籍しており、学生の半数以上がインターネットを通じて学習しているのが現実で、さらに双方向性を生かしたオンライン授業を導入したことなどを話されました。

その後「高等教育とICT(情報通信技術: Information and Communication Technology)」という切り口から、ヨーロッパを中心に世界の有名大学の看板教授の講義をインターネットを通じて受講できる「大規模公開オンライン講座(MOOC)」の現状や、ご自身が理事長を務めておられる日本語での講義を提供する日本版MOOCである「日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)」を立ち上げられた背景や運営の狙いなどを詳細に説明されました。

今後の大学のあり方として、一つはブランドや伝統を重視し価値を見出す従来型大学と、もう一つはクラウド型大学というあり方でさまざまな大学から質の高い講義を選択し学ぶというスタイルの二つの形に

焦点が当たると語られました。クラウド型大学を実現させるためには、放送大学の提供する講義や教材を含め各大学の秀れた教育コンテンツを共有化するとともに、フラグメント化された教材の組織化と共同利用を推進することが必要です。JMOOCがそのプラットホームの一つとして運営されるのではないかと考えます。

我々同窓生・学生に有益で貴重な話題を提供していただいた、白井理事長に参加者一同からの感謝の気持ちを込めて花束を贈呈し講演会を終了しました。(木下義則)

(2) 同窓会からの報告

第1日目9月3日10:00、ホームカミングデーのオープン、12:15からは「センター所長を囲む茶話会」が行われたほか、プランジヤパン(PIJ)の紹介ビデオを放映、13:00からは太極拳を行いました。また、11:40から放送大学叢書・バッジ販売も行いました。叢書は2日間で14冊売上げました。

第2日目9月4日9:00、受付開始、茶席参加券の抽選からスタートしました。同時にホームカミングデーがオープンしました。2日間で参加者は79名を超えました。



12:10からは、お抹茶コーナーが開かれ、近隣同窓会のお客様9名なども参加して開席式が行われました。2日間で150名の皆さんに、他の催しとは一味違う「静」の空間と時間を楽しんでいただきました。

15:00からは、同窓会主催の「福引大会」です。参加者は手に手に入場券を持ち、当たりくじが出るたびに歓声が沸き、大きな盛り上がりの中でフィナーレを迎えました。(大木陸夫)

平成28年9月学位記授与式

9月25日(日)午後2時から学位記授与式が第8講義室にて執り行われました。神奈川学習センターの卒業生は125名で、その内69名の方が式典に出席されました。式典に先立ちロビーでは、同窓会が桜茶で接待し、ささやかながらお祝いの気持ちをお伝えしました。

式典では池田センター長から学位記が授与された後、次の言葉が贈られました。「学歌に“生きることは学ぶこと”という言葉があり、自分が社会の中にどういふふう結びついていくか！常に前進して大切に感じていって欲しい。」

続いて佐栗同窓会会長ならびに6名の客員教授により祝辞が述べられました。

その後、所長表彰が行われました。成績優秀者となった三戸薫さんが思い出のある授業、資格に結びついた科目もあり、社会に貢献していきたいとお礼の言葉を述べられました。また最高齢者として89歳の杉本與七(よしち)さんが表彰されました。(とても若々しく常に学び、前進している姿勢に感動しました)他に名誉学生として金井彰彦さんが表彰されました。金井さんは、最初の入学の頃はインター



ネットの配信もなく、スカパーとCATVで学習され、東京、文京、世田谷、山梨、静岡学習センターなど各地のセンターに足を運び、苦労を楽しみに変えて頑張ってくられ、めでたく6回目の卒業を迎えられました。

式典終了後、第7講義室に於いて、学習センターと同窓会との共催による祝賀茶話会が開かれました。多くの卒業生が参加していただき、賑やかに歓談の輪が広がりました。卒業生全員から一分間スピーチを頂き、卒業に至るまでの苦労や喜び、再入学のことなどが披露されました。このようにして皆さんで卒業の喜びを分かち合い、盛会のうちに終了しました。

(武田きみよ)

卒業生の言葉

名誉学生と呼ばれることになりました

金井彰彦



今回の式典は、私にとって6回目の卒業式となり、それにより名誉学生(情報を含む6コースを卒業した者としては神奈川学習センターでは初めて)と呼ばれることになりました。入学から14年6ヶ月間まじめに、そして苦勞して取り組んだ成果です。

私の入学は平成14年4月でした。直前の3月が、昭和34年4月から勤めてきたサラリーマン生活の卒業でした。これからの生き方を思案していた時、書店の店頭で「放送大学」の募集案内が目に入りました。仕事の一線は退くけれど、現役の学生になって「学士号」の取得にチャレンジすることに決めたのが、応募締め切り間際だったと思います。

入学して学習を始めてから感じたのは、科目によっては難解な内容のものもあり、卒業には「124」単位を取得しなくてはならず、大変なプレッシャーを感じました。また授業時間が早朝や深夜もあり、毎日授業があるわけではないので、受講漏れのないようスケジュール管理を怠らないことにも気をつけました。現在はTV番組・ラジオ番組とも、殆どがインターネットで配信されているので、マイペースで学習できるのがいいですね。

最初のコースの卒業を迎える時、折角学習するという習慣が身についたのに1コースだけの卒業で終わるのはもったいないと思い始め、再入学することにしました。興味のある科目・コースを選択し、学習を進めた先に6枚の「卒業証書・学位記」と「放送大学名誉学生」の称号を授かることになりました。卒業式当日、早速センターの2階廊下に掲出されているパネルの31番目に自分の名前が掲載されているのを確認しました。

さて今後については、興味あるテーマに絞って「選科履修生」「科目履修生」として生涯学習に取り組んでいきたいと思っています。最後になりますが、「神奈川同窓会」への入会についてであります。今回学部コース最後の卒業を迎え、入会の決意を固めました。会長をはじめ皆さま、よろしくお願ひします。

内面を磨く

三戸 薫



子育てが一段落して自分の時間が持てるようになった頃、私は心がちょっと輝くような何か新しいことを始めてみようと思いました。

そこで先に放送大学で勉強していた知人に紹介していただき、選科履修生として入学しました。学んでいくうちに今までずっと続けてきた子どもたちに関わる仕事の重要性を感じ、更に勉強したいという意欲がわいてきました。

そこで卒業することを目指して全科履修生に編入して「心理と教育」コースを選び、特別支援教育に関するさまざまな科目を取りました。しかし卒業するためには苦手とする科目も取らなければならないところを何度も繰り返し聴講できる放送授業のシステムに心救われたことを懐かしく思います。

また、子どもたちの役に立ちたいという初めの目標から、発展していったこともありました。社会の中の芸術や西洋音楽史では、若い頃に学んだことを振り返ることができ、楽しくとても印象に残る科目でした。更に在宅看護論を学んだことで、ヘルパーの資格を取ることができました。それは今、養護学校を卒業していったお子さんたちの支援に繋がっています。人口減少社会のライフスタイルなどは自分の家庭を振り返ることができ、さまざまな心理学の勉強は、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。これらの単位が取れたときの喜びはひときわ大きく、日常生活とは違う充実感がありました。

目標としていた科目を取ることは勿論ですが、おもいがけず取った科目に新しい発見があり、まさに放送大学でいうところの知れば知るほど人生は楽しい！ということが実感できました。私は放送大学で学んだことで、自分の中の何か少し輝いたように思います。その輝きが自信と力になり、次世代を担う子どもたちのために、少しでも社会に貢献できるよう努めていきたいと思えます。

3回目の卒業、そして4回目の入学

本多真実



私は今回の卒業式で、3つ目となる学位記を頂戴しました。放送大学に入学したのは1991年第2学期ですから、休学の期間も含めると25年も在籍していたこととなります。この場を借りて

四半世紀に渡る放送大学での学びを振り返りつつ、これからの希望を述べてみたいと思います。

20歳で県内の短期大学を卒業し就職して3年目、仕事にも慣れもう少し勉強したいと思い、短大時代の専攻に近い「人間と文化」コースに編入学しました。その時は特に卒業には拘らず、興味を持った科目を選んで学んでいました。途中、心理相談職の資格取得を目指して「心理と教育」コースに変更し、一旦は在籍期間満了で除籍になるも再入学して1回目の卒業を果たしました。目標としていた資格は取得できませんでしたが、希望していた大卒総合職としての転職に成功しました。学校図書館司書教諭の課程を放送大学で履修したのも同じ頃でした。しばらく仕事や生活環境の変化に忙殺され勉強から離れていましたが、40代に入りもう一度学ぶ必要を感じ、一度は諦めた「人間と文化」コースに再入学しました。放送大学のありがたいところは、過去に履修した科目の単位が有効なことで、20代の頃に取得した単位も卒業要件として認められたため、2度目の卒業は最初よりもずいぶん余裕のあるものになりました。そのお蔭で、幅広く様々な科目を履修することができ、エキスパート認証をも頂くこともできました。

入学から20年以上もかかりましたが、「人間と文化」コースを卒業し、そのまま「社会と産業」コースに再入学しました。この頃には「名誉学生になる」という大きな夢(野望?)を抱くようになりました。それを意識始めた時はまだあまりにも途方もなく遠い道程のように感じましたが、6コースのうち半分を折り返してみると自分にもできるのでは、と力が湧いてきました。私の夢はさらに大きく膨み「名誉学生になって、全国の学習センターで面接授業を聴講しながら旅する放送大学生」になることです。放送大学で学ぶことは、私にとってライフワークの一つになりました。

第2の人生は、晴耕雨読

小林隆次



65歳の定年を半年後に控えた頃、定年後の人生をどう過ごそうかと職場の同年代の人達とよく話をしました。ある人は趣味の海釣りや奥様との各地の温泉めぐりを存分に楽しみたいと云い、又

ある人は地域の人達ともっと密着し、地元の神社の祭礼の世話役など地域活動に力を入れた余生を送りたいとの抱負を語り、又別の人はパソコンをより上達して、平日には、フィットネスクラブへ通い脳と体を鍛えたいという希望を述べ、三者三様の定年後の人生の過ごし方を語っていました。

私は、それまで趣味と言えるものは、10年以上続けている借地の30平方メートルの家庭菜園で、春3月のジャガイモの植え付けに始まり、夏野菜、秋11月の玉ねぎの植え付けまで、1年を通して、週1回ぐらいのペースで菜園通いをしてストレスの解消と新鮮野菜を食べる楽しさと歴史小説を読む事ぐらいでした。

定年後の余暇をどう過ごそうかと考えた時、思い出したのが、「晴耕雨読」という言葉でした。晴れた日に畑を耕し、雨が降れば本を読む生活。本を読むとは、どのような本を読んだらよいか、それまで時々通っていた近所の図書館へ行ってみると、同年代の人達(男性が多かった)が新聞雑誌を読んでいる状態で、今後、家庭菜園、図書館通い、近所の散策だけでは、「余暇が消化出来ない!!」と気づきました。そんな時、妻の友人が放送大学に通っていた話を聞き、放送大学に関する資料を集めてみると、神奈川学習センターが自宅から近い事、興味のある科目だけでも学べる事が解り、退職後は放送大学に入学する事に決めました。

最初に選んだ科目は、興味のある「日本の近世」と「北東アジアの歴史と朝鮮半島」の2科目で、選科履修生として学び始めました。入学者の集いに参加して、サークル紹介で知った英語グループの「うえるかむ」と「放友会」の2つに入りました。このサークルに入った事で学習についてのアドバイスとか、旅行に行くとかで忘れていた学生生活が甦りました。

単位認定試験も、試験独特の緊張感を思い出させてくれました。1年を経過した時点で諸先輩のアドバイ

スもあり、全科履修生に切り替えました。私は選科履修生として放送大学に入学し、全科履修生に切り替えて卒業を目指す事に決めた時から、卒業という目標が出来た事で、更に意欲的に学習に励んでこられたと思います。ここで「人間と文化」コースを卒業し、次は「社会と産業」コースに再入学致しました。今後も今まで以上に学習に、サークル活動に励んでゆきたいと思っています。

卒業生ショートメッセージ

◆札幌市 匿名男性:13年かかって「生活と福祉」を卒業しました。その間に北海道に転居したこともあり、学習継続には難しさもありましたが、続けて良かったと思います。10月からは北海道学習センターに移り「社会と産業」を学んでいます。

◆厚木市 匿名男性:卒業までの6年半を振り返り、途中2011年の東日本大震災により1年半の休学を経て、卒業という区切りを付けられた事には正直ほっとしています。しかし乍ら卒業生皆様のお話を伺いますと、小生は今がスタートなのだと背中を押される思いが致し、終生学び続ける事を課したいと思います。

◆横浜市 匿名女性:卒業前の最後の試験では単位を落としたりとどうしようとドキドキしました。卒業が決まった時はとても嬉しかったです。横浜港クルージング交流会も朝の雨から快晴に変わり、楽しく皆さんと過ごすことができました。

◆横浜市 鶴丸範雄:定年を機会に、全科履修生卒業8年を目標に、年間の単位数“16”を設定して、7.5年で卒業となる。入学した当時は、放送授業は放送日時に合わせなければならぬので苦勞しました。面接授業は先生、生徒が教室で接するので一番楽しい思い出が残っています。

会員投稿

中国人の「孝」に対するあるエピソード

澤村雅嗣



今から二十五年ほど前、私は仕事で河南省洛陽郊外にある伊川(いせん)という街を訪れました。そこは黄河にほど近い「中原」の町でした。その町のある取

引先の工場参観と商談が目的でした。

大連支店の中国人スタッフ範崇志さんが同行してくれました。大連から北京経由で洛陽飛行場に着くと、取引先の総経理(社長)が出迎えてくれました。範さんと総経理が名刺交換をした時の事です。彼等とは互いに眼を見合わせ、それから固く抱擁を交わしたのです。私は唯々あっけにとられてその光景を見守っておりました。彼らの眼には涙さえあふれておりました。二人はその奇遇を大変喜びあっておりました。工場に着くまでの車の中で、範さんが事の次第を説明してくれました。

彼等二人は互いの先祖が一緒に、始祖は北宋の有名な政治家であり、文人でもあった「範仲淹」で、彼ら二人はその三十代目の子孫に当たると言うのです。範仲淹は生前、百代まで子孫につける名前の漢字を詩文にして残したのです。

中国人の姓名は一般に三文字で一字目が姓、二文字目と三文字目が名を表します。大連の範崇志さんの「崇」の字は「範仲淹」の詩文の三十番目に当たる漢字なのです。伊川の総経理の氏名は「範崇国」でした。名刺交換した時、二人はすぐに血縁関係のある同族であることを理解したのです。

「範仲淹」(989～1052年)から三十代で千年近くの歳月が流れています。百代までになると更に二千年以上の時が流れて行くことになります。

大連の範崇志さんと伊川の範崇国さんは、それ以後親しく親戚づきあいを続けています。一昨年、伊川の範さんは、私と大連の範さんを伊川に招待してくれました。彼とは十数年ぶりの再会でした。鄭州(ていしゅう、河南省の省都)の飛行場で我々を直接出迎え、その足で洛陽郊外にある「範仲淹」の墓を案内してくれました。墓は宋代に作られたもので、「範仲淹」とその息子が葬られていました。墓の入り口近くに、高さ二十メートル近い白石を彫刻した「範仲淹」の立像がひときわ目立って建てられておりました。数年前に範崇国さんが私財を投じて建設したものでした。除幕式には中国全土だけでなく、台湾やアメリカ等世界中の範一族が集まり、盛大に行われたとのことでした。現在範崇国さんは「世界範氏一族親睦会」の副会長をしており、範一族の親睦と相互扶助に尽力しています。

このエピソードから司馬遼太郎の以下の文章が想起

されます。「孝は子の父親に対する倫理だが、しかし、さらに村落の長老に対しても孝は父親に対すると同様に作動し、ついにはその姓の者が何百万いようともみな親類であり、骨肉の仲である・・・」(『長安から北京へ』)

弘明寺サロンへのいざない

同窓会主催の弘明寺サロンも49回の回数を重ねさらに皆様に興味を持っていただけるよう役員一同、趣向を凝らしています。気軽に参加していただけるように、事前申し込みは不要です。日程やテーマなどは学習センターの掲示板や同窓会のHPでお知らせしていますので、自由にご参加ください。

第46回弘明寺サロンは6月11日ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士の業績について、同窓会会員の石橋正彦さんが解説されました。線虫が引き起こす感染症、

河川盲目症(オンコセルカ症)の治療薬の発見により熱帯地方の人たちを救ったことによ



る受賞、さらに出身地山梨県韮崎市に美術館を建て寄贈し、温泉を掘削され、学者の域を超えた経営手腕(?)により250億円もの特許料を北里大学などに還元させた話、興味の尽きないサロンでした。

第48回弘明寺サロンは9月17日開催、同窓会会員の村田カズ子さんの卒業研究のテーマである「李氏朝鮮王朝最後の王女」徳恵姫(日本)と韓国での呼び名徳恵翁主(トクエオンジュ)を書いた日本側と韓国側からの2冊の本から読み解く日韓の複雑な関係を話されました。徳恵姫は日本の宗伯爵家へ、兄の英親王は日本から梨本宮方子さんを迎え、兄妹で日韓併合の大きな礎となる政略結婚に運命をゆだね数奇な人生を送られたとのこと。何度も韓国を訪れ朝鮮史を学ばれている村田さんから、韓流ドラマで恋人同士が歩くシーンに使われる道(トルダムキル)の紹介などソフト面のお話もありました。

第49回弘明寺サロンは10月15日同窓会会員の木村勝紀さんの「がん体験と教訓」、現在2人に1人はがんを発症する、と言われているので明日は我が身的な

テーマでした。副題の(早期発見ならがんは怖くない)に安堵し聴講。病名は悪性リンパ腫、それも30種くらいある悪性リンパ腫の中でも3%くらいしかない珍しいがんだったとのこと。抗がん剤投与で体重減少、味覚変化、頭髪変化、嚥下障害などの体験をされ、それでも体力をつけるために毎日歩く、食生活を見直す、自身の自然治癒力を信じることなど高い精神性で乗り切られました。教訓として、加齢と共に自己免疫力も落ちているので、今までの自分の体力を過信してはいけないと話され、重い標題にも拘らず、私達に伝えたいという木村さんの思いの伝わるサロンでした。

(万場由美子)

「秋の行事」シーサイドラインに乗って 学び楽しむ旅

11月8日(火)、26名で金沢シーサイドラインの見学会を実施しました。まず並木中央駅に隣接した車両基地の司令区でコンピューターによる無人運転の仕組みの説明があり、そのあと検修区に移動し車両の構造の説明がありました。特に安全対策は充分施されており開



業以来、事故は起きていないということです。見学終了後、全員で記念写真を撮り次の場所へと向かいました。

産業振興センター駅で下車し、駅から近い横浜テクノタワーホテルのレストランで昼食を取りました。団体個室の利用だったので落ち着いて食事ができました。そのあと、このホテルの近くにある各食品工場の直売所で和菓子、洋菓子、中華菓子、煮豆やつくだ煮など皆さんそれぞれ好みの物を選び買物を楽しみました。

次に向かったのは野島公園駅。野島公園には明治31年(1898年)初代内閣総理大臣の伊藤博文公によって建築された茅葺屋根の建築物があり、その歴史的価値から横浜市指定文化財に指定され、一般公開されています。この客間棟の夕照の間には、同窓会会員の古内都さんがボランティアで行われている自作の掛け軸が掛けられており、ご本人からその説明を受けることができました。そのあと、野島山の展望台迂行き坂道や展望台の階段もあったものの皆さん元気で上り、眼

下に見える海の公園や八景島など360度の景色を眺め楽しみました。最後は野島公園駅で解散でしたが多くの参加希望者が懇親会へと向かいました。

(佐藤 敬)



社会貢献活動 (プラン・ジャパン)

神奈川同窓会では会員の皆様の寄付金を基に、プラン・ジャパンを通じて発展途上国の子供たちへの支援と、世界各地で発生する自然災害に対して緊急支援を実施しています。今年は子どもたちへの支援として30万円を、また4月に発生した熊本地震に対して、日本赤十字社を通して5万円の特別支援を行いました。

熊本地震では、人的損害のみならず、家屋の損壊、道路の陥没・寸断や橋の崩落、九州新幹線の運休、熊本空港の閉鎖など、県下全域に渡って、交通網が麻痺しました。2度に渡るこれまでにない特異な揺れ方により、被害が拡大しました。

全国のみならず、海外からの義援金や物品などの支援を受け、復興に向けて立ち直りつつあるとの報告を受けておりますが、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

(赤松孝子)

社会貢献活動 (あしなが育英会)

神奈川同窓会では放送大学叢書を受託販売し、手数料を全額あしなが育英会に寄付して、奨学金を授与された学生から大変感謝されています。放送大学叢書は最近次の3冊が刊行され、現在35冊になっていますのでお知らせします。

皆さんも是非手に取って見て下さい。

島内裕子『方丈記と住まいの文学』

御厨 貴『戦前史のダイナミズム』

高山 守『ヘーゲルを読む自由生きるために』

(村田カズ子)

第8回映画上映会報告

平成28年8月13日(土)に「風と共に去りぬ」を上映しました。この映画は1940年にアカデミー賞を受賞した作品で、当日は38名の参加で大好評でした。

第9回映画上映会のお知らせ

同窓会では次回映画上映会を下記の通り開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

映画タイトル:「劔岳・点の記」

日時:平成29年2月18日(土)

13:30~17:00

会場:神奈川学習センター第8講義室

「点の記」とは三角点設定の記録です。日露戦争直後、前人未踏といわれ、また決して登ってはいけない山と恐れられた劔岳山頂に、三角点埋設の至上命令を受けた測量官の物語。(柳澤明男)



「越中の小京都・城端(じょうはな)の曳山」
安達美帆子

事務局だより

平成28年10月1日現在の会員数は615名です。また平成28年秋季入会者は下記の通りです。心から歓迎申し上げます。(敬称略)

奥村明男	石川博史	湯澤ひろみ
笠原光春	鶴丸範雄	木村多一
金井彰彦	松本幸江	大谷葛代
小林隆次	池田博子	三戸 薫
古川裕康	田代和嘉	

お願い

住居移転のあった方は、葉書またはホームページ URL <http://hatoh.net/> の「入会案内欄」にて連絡をお願いいたします。また例年総会案内と共に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので未納入の方はご協力をお願いいたします。

口座名 神奈川同窓会

口座記号番号 00250-4-□□16183 (右詰め)

年会費 1,000円(送料はご負担願います)

お問い合わせ 大木陸夫 Tel.045-861-3860

E-mail ookiikurio@rb3.so-net.ne.jp

投稿写真展



「わが家の鳥の餌台」
近在に住んでいるワカケホンセイインコ。
これまでの最高は32羽でした。 石橋正彦